



熱意あふれる発言が相次いだ放談会

竜丘地区新春放談会

竜丘の御意見番多数登場

今日の様々な社会情勢の変化の中、私達の竜丘も地域環境が大きく変わるうとして。そんな竜丘の「今」を大いに語ろうと、平成五年竜丘地区新春放談会が、一月二十四日竜丘公民館で開かれた。

各種団体の役員、地区選出の市議員、一般の参加者を交えての意見交換では、多数の建設的提言が出された。

今年の新春放談会は二部構成で企画され、一部では時又の榎一郎さんによるビデオライブラリーの鑑賞、二部において意見交換となった。

榎さんのビデオは十一年、現在NHKビデオクラブ副会長を務め、地区の季節の話題をテレビを通してタイムリーにお茶の間へ送り届けている。

日常生活の中の何気ない自然の変化や、うっかり見過してしまいうような小さな話題を記録し、広く紹介することは、地域住民が忘れてきている何かを再認識させる大きな役割を占めているのではないだろうか。

年々変貌を遂げて行く竜丘や、そこに住む人々の今をこれからも撮り続けてもらいたいと思う。

次に発言に立った参加者から、今や社会問題にもなっているゴミ処理に関して地区民のモラルの低下を嘆く意見が出された。

各家庭で責任あるゴミの分別をし、指定された袋以外は使用しないなど徹底した指導が必要である。また、海外からの出稼ぎ労働者が居住する地区では、言葉の問題などから、トラブルが発生しており、外国語での説明書き等が必要だ。

安協からは、駄科、桐林地区を中心とした国道沿いの店舗増加に伴ない交通量が増え、交通事故が多発しており、地区内の交通安全確保について地区民全員の意識の高揚を図ってもらいたいと要望があった。

また、文化財保護の関係者から竜丘に現存する古墳

の群は、日本の古代史を語る中でも重要な資料となるものであり、更に石像文化財についても歴史的価値の高いものが多くある。

開発が進むことで破壊が進み、調査・保存管理の確立を急がないと手遅れになるとの危惧する意見も出た。古墳公園などによる保存方法は実現できないものか。

社協からは高齢化社会を迎える中で、老人福祉問題を他人事と思わず、地区内でお年寄りが孤立しないようなネットワーク作りを積極的に考えて行くべきだと提言があった。

関連して、区民同士が老若男女ふれあうことのできる機会(行事)を増やしたいと時又分館長からの発言があり、期待が持たれる。

続いて防犯について、地区内でも犯罪の低年齢化が進行中。各家庭においても地域環境の浄化についても話し合いを！と呼び掛けがあった。



捨てられた缶とモラル

今年二月、竜丘消防団、上川路班詰所、駄科班に積載車が配置された。

上川路班詰所は、昨年秋季から工事が始まり、一月末には完成し、引き渡しとなり、二月に入り、開善寺前にある旧詰所よりの引越となり、二月一日の機関点検より新詰所での活動となった。

新詰所は、開善寺より川路方面に百メートル程の所に新たに整地して作られ、火の見やぐらも旧詰所より移転された。今までは、上川路班には、積載車がなく大変不便な活動であったが今回の詰所の新築と共に新しく積載車が配置された。

現在はまだ、駄科班の払い下げが入られていないが、これも四月には新車になる事が決まっている。

新詰所の竣工式と積載車の入魂式は、三月十四日に市の関係者を始め、自治会、区、消防関係者を招き行なわれる。

駄科班にも最新型の積載車が配置され、すでに新車での活動が行なわれている。

新積載車の入魂式は、上川路班詰所と同じ三月十四日に行なわれる。

今までより消防活動のスピードアップ、能力の向上など体制が一段と強化され今後の予消防防、生命財産を守る活動に期待が掛かる。

マレットゴルフ同好会からは、会を盛り上げて行くためにも地区内へのコースの造成は可能なかと、積極的な発言が飛び出し、意気込みが感じられた。

これらの提言が単に放談で終わることなく、何らかの形で検討、実現されることを願うものである。

この種の火災を減少させる事が出来れば、大幅にその発生を防ぐ事につながります。

しかし、残念ながら今年に入っても、昨年のペースを継続する形で、火災が発生しています。誰もが、出したくて火災が発生している訳ではありません。

でも、風の強い日の土手焼、焚火の火始末等、ちょっとした油断で大切な財産、人命が失われてしまいます。今一度、身の回りを見直し、火の取り扱いに充分注意して下さい。『点検を重ねて築く「火災ゼロ」』

理想の里に「ゼムトス」

桐林壮年会発足

中島捷

竜丘地区の中で結成が遅れていた桐林壮年会、昨年夏にようやく先輩四地区の仲間入りをさせていただきました。

桐林には、古くより桜の名所万寿山の管理を主に活動する共和会が有りますので、壮年会はこの上の年齢層、三十五〜五十才までの百十余名が参集しました。

そして、地区へのご挨拶として桐林八幡社の秋祭りに合わせ、ささやかに小玉ばかり花火数十発を以て、活動のスタートをきりました。

当桐林も、国道周辺を中心とした開発が目まじく、国道開通前は隔世の感です。更に今年、飯伊地区の地方拠点都市の指定、飯田市が県下四番目の十萬都市と続き、近い将来には三遠南信自動車道の近隣通過も確実視され、夢のリニア

こうした背景の中で、いままでと大きくつながり欠いていた中堅層が一つにまとまり、地区の将来を共に考え、そして住みよい桐林とするために今何かをやらなければならぬ、と必要性を強く感じ結成に至ったものです。

壮年会活動の指針として、地区の繁栄に貢献し得る何等かの行動を柱に据え、会員の資質の向上のための学



ここが新しい防火の拠点です



出動準備完了です でも火は出さないで

この種の火災を減少させる事が出来れば、大幅にその発生を防ぐ事につながります。

しかし、残念ながら今年に入っても、昨年のペースを継続する形で、火災が発生しています。誰もが、出したくて火災が発生している訳ではありません。

でも、風の強い日の土手焼、焚火の火始末等、ちょっとした油断で大切な財産、人命が失われてしまいます。今一度、身の回りを見直し、火の取り扱いに充分注意して下さい。『点検を重ねて築く「火災ゼロ」』

この種の火災を減少させる事が出来れば、大幅にその発生を防ぐ事につながります。

しかし、残念ながら今年に入っても、昨年のペースを継続する形で、火災が発生しています。誰もが、出したくて火災が発生している訳ではありません。

でも、風の強い日の土手焼、焚火の火始末等、ちょっとした油断で大切な財産、人命が失われてしまいます。今一度、身の回りを見直し、火の取り扱いに充分注意して下さい。『点検を重ねて築く「火災ゼロ」』

も現実の姿となりつつあり、習活動、会員相互の親睦を今までは比べものにならないスケールとスピードで飯田市の、竜丘の、桐林の発展が進むものと予想されます。

折しも、竜丘地区の基本構想、基本計画策定作業が三十七日は、消防記念日ですが皆さんは御存じでしょうか。

これは、四十五年前消防基本法が制定された日を、機会に定められたそうです。さて、昨年平成四年は、飯伊地区では実に百二十一件もの火災が、発生しこれは、昭和六十三年と並ぶ最悪の件数でした。

当地区でも、残念ながら八月に建物火災が発生し、尊い人命が失われています。百二十一件と言え、三日に一件の割合で火事が発生している事になります。

昨年の統計から見ると、これからの三月から五月までに約三分の一の四十一件の火災が発生しています。

これは、空気が乾燥し火災が発生しやすい状況であったり、土手焼等が非常に多い事が考えられます。

この事は、出火原因のトップ(二十七件)として、焚火、土手焼があげられている点を見ればはつきりしています。

この種の火災を減少させる事が出来れば、大幅にその発生を防ぐ事につながります。

しかし、残念ながら今年に入っても、昨年のペースを継続する形で、火災が発生しています。誰もが、出したくて火災が発生している訳ではありません。

でも、風の強い日の土手焼、焚火の火始末等、ちょっとした油断で大切な財産、人命が失われてしまいます。今一度、身の回りを見直し、火の取り扱いに充分注意して下さい。『点検を重ねて築く「火災ゼロ」』



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
上郷町黒田 22-5353

人口	6,483人
男子	3,146人
女子	3,337人
世帯数	1,848世帯
(5年1月末日現在)	

